

## サンコンさんのスイッチ

10月31日(木)に中之島小学校で、オスマン・サンコンさんの講演会が開かれました。「1コン2コン、サンコン！」と聞けば、平成生まれの若い人を除けば、あの北野武さんやタモリさんたちのテレビ番組で、引っ張りだこだった昔日(せきじつ)を思い出すことでしょうか。縁あって知り合ったのは今年3月。恥ずかしながら、その時までお笑いの芸人さんだと思っていました。しかし、初対面にもかかわらずあまりの興味深い話に時間を忘れてしまった。「ぜひ、子どもたちに話をしてくれませんか？」とお願いをしたところ、約束通り来てくれました。

現在70歳。西アフリカ西端のギニア共和国出身。子どもの頃、サッカーで大けがを負う。当時はフランスの植民地で貧困と人種差別の中、十分な治療などがされないまま、少年は曲がった足をそのまま固定され、今も爪先は後ろ向きになっている。後に、フランスからの独立を果たしたギニア共和国建国の一員である父は、「お前は勉強で道を立てなさい」

と言ひ、母は、夕暮れに高い空を飛んでゆく飛行機を眺めていた我が子に、「勉強すれば、あなたも飛行機に乗る人になれるんだよ」と諭した。自分の心に火が付いたのは、その時だったと語ってくれました。

成長し、国費留学生としてフランスに留学、国を背負う大秀才として外交官の道に。6か国語を操り、国連活動や世界中を巡ってきた彼が、日本の素晴らしさを子どもたちに語りかける。「あなたたちは何にでもなれる」「私は医者になりました。初めて知った日本人は野口英世。疫病から救ってくれた彼を、アフリカの人は今でも尊敬している」手の重い火傷から「てんぼう」といじめられた野口を自分と重ねていたという。

講演を聞いた小学5・6年生は、お笑いで有名だった頃の彼を知りません。しかし、笑顔でみんなの目を見ながら話す誠実さと、太陽のような明るさと深い話に、何かを感じとったと信じている。講演後、「やる気スイッチ、入ったらいいね」と、うれしそうにささやいてました。そうなたら本当にいいね。

シリーズ  
第80回

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ～boast of my country～

ウズベキスタン共和国 グルノザ・イバドゥラエバさん



## 私の国はこんなところ

ウズベキスタンは中央アジアの中心に位置し、サマルカンド、ブハラ、ホレズムなど、最も古いもので約2,700年前の古代の石造りの都市があります。

気さくで親しみやすい国民性と、おいしい料理で有名な国です。最も有名なウズベキスタン料理である「プロフ」は、世界無形遺産として

ユネスコに登録されました。

首都タシケントには日本人拘留記念館があり、1940年代にウズベキスタンに送られた25,000人の日本人について紹介されています。

## 南魚沼市に住んで感じたこと

私は一年前に日本に来ました。日本は外国人にとっても、非常に安全な場所だと思います。日本人の誠実さ、規律、自然への敬意に感銘を受けました。

また、大和地域の農産物の生産過程についても感銘を受けました。スイカ、ブドウ、米を特別な注意を払って取り扱っています。そのため、これらの農産物は高品質です。南魚沼は私の第二の故郷(ふるさと)になりました。ここで、私は魂と心の調和、平和を見出すことができました。



## ウズベキスタン共和国

|          |                              |
|----------|------------------------------|
| 公用語      | ウズベク語                        |
| 首都       | タシケント                        |
| 面積       | 447,400km <sup>2</sup> (55位) |
| 人口       | 32,800,000人                  |
| GDP(PPP) | 2,230億ドル (65位)               |
| 通貨       | スム(UZS)                      |

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です